

JASIS 2016 見聞録

千葉県の幕張メッセにおいてアジア最大級の分析機器・科学機器の展示会 JASIS 2016 が 9 月 7 日（水）から 9 日（金）の日程で行われました。入場者数合計は 24,381 人であり、分析展/科学機器展の合同展が 2012 年に JASIS の名称に改称されて以降、最多の来場者数となりました。内訳を見ますと 7 日が 8,228 人、8 日が 7,136 人、9 日が 8,519 人でした。8 日は台風 13 号が関東を直撃する予想でしたので来場を控えた方々もいたかもしれません。今回、取材を行ったのはその 8 日で、台風は直前に温帯低気圧となったため交通機関の乱れもなく到着できました。9 時半過ぎの時点で、会場入口付近には多くの来場者が 10 時からの開場を待っており、限られた時間で多くの情報を持って帰ろうという意気込みが感じられました。さて、入場に関して今年は大きく変わった点の一つがありました。昨年までも事前登録しておけば事前送付されたバーコード付き入場証を確認されるだけで入場でき便利になったものだと感じていたのですが、特に開場直後は受付が混雑することがありました。今年は、早期事前登録しておけば受付せずに、各入場口から直接入場できるようになりました。細かな事ですが、来場者にとって時間を有効に使えるありがたさを感じました。

展示会場をひと回りした後、事務局本部を訪ねて JASIS 委員会委員長の野元政男氏、技術委員会副委員長の内田 稔氏、事務局長の片岡信義氏から JASIS 2016 の概要や特徴を伺いました。今年のキャッチフレーズは「未来発見。Discover the Future.」。JASIS では「未来発見」をキャッチフレーズに「イノベーションを生み出し、将来のビジネス発展につながる発見の場となる」ことを目指して、開催の 1 年半前からお客様のご要望を反映した企画の検討を始めているとのこと。実はこのキャッチフレーズは最初の JASIS である JASIS 2012 から同じであり、展示会のコンセプトを変えていないこととなります。JASIS を象徴するキーワードということでしょうか。しかし、その内容は毎年見直され、随所に変更点が見られました。新企画の「オープンソリューションフォーラム」では、「素材・材料の開発と品質管理が我が国のものづくり競争力を支える」をコンセプトに、話題となっているテーマから三つ、①健康・機能性食品、②環境浄化製品、③自動車について、専門家からの基調講演 6 件と出展社からの発表 18 件があり、活発な討論が行われました。展示会場内で行われているため移動にも時間を要さず、また事前登録制で会場に簡易な



写真 1 ライフサイエンスイノベーションゾーン

仕切りは設けられておりましたが、演者の講演内容が周囲の雑音に邪魔されない「バナナイトシステム」を導入するなど、プライオリティーの高い企画になっていました。今年の特別企画は「ライフサイエンスイノベーションゾーン」でした（写真 1）。これは、3 年続いた「先端診断イノベーション」（1 年目はメディカルイノベーションという名称でしたが内容は先端診断関連）を発展的に継承し、「次世代ヘルスケア」「細胞・再生医療」「先端創薬」「予防医学」「先端診断」「フードサイエンス」領域における最先端の分析ソリューションを提供する場になりました。国内だけでなく、米国、オランダ、カナダなど海外からの最新情報も発信され、充実した内容でした。これらに関連する出展企業プレゼンや特別展示も同じホール内で行われており、来場者の動線を配慮するものでした。その他、例年どおり新技術説明会や JASIS コンファレンス等も引き続き人気となっており、セミナー数は約 500 だそうです。これは、アジア最大級の IT・エレクトロニクス総合展示会（2015 年は 4 日間で 13 万人以上来場）であった CEATEC JAPAN のセミナー数約 300 を優に上回り、JASIS が単なる展示会ではなくソリューションを提供する場となっています。

事務局でお話を伺った後、各会場をまわりました。国際会議場では関連各学会、団体や主催者主催の 50 のセッションが例年どおり JASIS コンファレンスとして行われていました。「インターナショナルコンファレンスセッション」では米国 Pittcon 委員会と連携開催の US シンポジウムや中国フォーラム、韓国フォーラム、アジアテクニカルフォーラムがあり、どれも同時通訳用イヤフォンが十分な数用意されていたので、気後れせずに聴講できたと思います。また、英国王立化学会主



写真2 JAIMA セミナー



写真3 新技術説明会

催の東京コンファレンスがあり、若手研究者によるプレゼンテーションやポスター展示も行われていました。これらの国際セッションでは最新分析技術の紹介もありますが、各国の分析機器市場についての解説もあり、JASIS ならではと言えるでしょう。日本分析機器工業会のHP で見たところ、平成12年以降の分析機器生産高の伸び分は分析機器輸出高にほぼ等しく、海外での分析技術、規制、市場の動向については業界としても重要なトピックなのだと思感できました。毎年恒例の「JAIMA セミナー」（写真2）では、初、中級の分析実務者を対象にした機器ごとやトピックごとの無料セミナーが用意されており、いくつか覗いたところ大変な盛況で、来場者の50%強を占めるユーザー層の強い支持を集めているようでした。同じく毎年恒例の「日科協セミナー」では、「知っておきたい科学機器業界の基礎知識」と題したセミナーが環境分析と食品・製薬分析の二つの分野に分けて開催されており、営業マンの教育として業界の基礎が学べるとのことですが、規格、認証、品質管理など実務を担う技術者、研究者にとっても聞いてみたい内容も盛り込まれていました。これら JASIS コンファレンスのほとんどのセッションは事前登録制なのですが、JASIS 全体の早期事前登録締切の8月26日前には多くのセッションで定員オーバーのため事前登録できなくなっていました。希望するセッションを確実に聴講するには相当早めに事前登録したほうが良いでしょう。JASIS コンファレンスと同じ国際会議場では「日本薬局方セミナー」が開かれ、これも恒例となってきました。定員500人の会場で行うことから関心の高さが伺えました。同じ大会場では日を変えて一般向けの JASIS 2016 サイエンスセミナーも開かれました。

国際展示場に隣接するアパホテル&リゾート〈東京ベイ幕張〉、ホテルニューオータニ幕張内の16会場では351テーマにも及ぶ新技術説明会が行われました（写真3）。出展企業各社が、自社の製品及び分析法などの技術動向、実際の分析にあたっての参考情報などを説明す



写真4 展示会場

るものです。発表は各社における分野及び機器の専門家が直接説明を行っている上、目的の会社の情報を的確に得ることができることも魅力となっています。新製品、新技術に加え、その分野の基礎的な解説を行うテーマも数多く開催されました。この会場には多くの聴講者が詰めかけ、各回入れ替え制であることから前の講座の終了とともに、次の講座に参加するために並びなおす姿も見られました。3日間で延べ15,000人以上の聴講者で、これを目当てに JASIS に来場される方も多く、満足そうに会場を後にしていました。

メインとなる国際展示場では4番～8番ホールを使って、様々な出展会社・団体による展示が行われていました（写真4）。昨年は4.5ホールで今年は5ホール全体を利用しているので展示面積は昨年より広がっていました。来場者は思い思いにお目当ての展示に立ち寄り、新製品について細かく質問したり、普段使用している機器の疑問をぶつけてみたり、こんな商品が欲しいとか、こんなことがしたいのだけど…などと、会話が弾んでいました。展示規模504社、1,468小間もあり、素材から汎用器具、先端機器、解析まであらゆる展示が揃っていますので、出展者との会話からイノベーションの種やブレイクスルーのヒントを見いだすこともできるでしょ



ポスター 1 JASIS 2017 のポスター

う。また、人の動きの多いこの業界で、かつての営業担当や技術者とばったり再会したり、偶然会った来場者間

で情報交換したりとプラスアルファの楽しみもあります。

事務局での取材時に、今年度工夫した特徴の一つとして来場システムの変更についてご説明頂きました。バーコード付き入場証のバーコードを利用して、来場者の動線を把握しようという試みです。事務局では毎年のJASISの総括として、各企画の分野別割合や来場者属性、アンケート結果などの分析を行い、100ページにわたる結果報告書を作成しHPで公表しています。こういった分析結果を踏まえ来場者や出展社の満足度を高める企画運営を常に心がけており、そのご苦労に頭が下がる思いです。

JASIS 2016では、ここで紹介できなかった様々な企画、セミナー、展示も数多く用意されており、まさに分析関係者のためのビッグイベントとなっています。来年のJASISは2017年9月6日(水)~8日(金)に幕張メッセで開催されますのでぜひご来場ください(ポスター1)。最後に、取材にあたって貴重な時間を割いていただいたJASIS委員会及び事務局の皆様、運営に携わっている皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

農業・食品産業技術総合研究機構	馬場浩司
株式会社コーセイ	安田純子
旭化成株式会社	坂部輝御

原稿募集

ロータリー欄の原稿を募集しています

内容

談話室：分析化学、分析方法・技術、本会事業(会誌、各種会合など)に関する提案、意見、質問などを自由な立場で記述したもの。

インフォメーション：支部関係行事、研究懇談会、国際会議、分析化学に関連する各種会合の報告、分析化学に関するニュースなどを簡潔にまとめたもの。

掲示板：分析化学に関連する他学協会、国公立機関の主催する講習会、シンポジウムなどの予告・お知らせを要約したもの。

執筆上の注意

1) 原稿量は1200~2400字(但し、掲示板は

400字)とします。2) 図・文献は、原則として使用しないでください。3) 表は、必要最小限にとどめてください。4) インフォメーションは要点のみを記述してください。5) 談話室は、自由投稿欄ですので、積極的発言を大いに歓迎します。

◇採用の可否は編集委員会にご一任ください。原稿の送付および問い合わせは下記へお願いします。

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2
五反田サンハイツ 304号
(公社)日本分析化学会「ぶんせき」編集委員会
〔電話：03-3490-3537〕